

アフガニスタンから密輸される麻薬ルートに関する考察

アフガニスタンは世界の93%のアヘンを生産していると言われて¹。近年ケシの作付面積は増加傾向にあり、特に反政府派が実質支配し、また治安が悪い地域の同国南部と西部に集中している。2008年の作付面積は、アフガニスタン政府によるケシ栽培撲滅運動が功を奏したことと天候不順もあり、157,000ha（前年比▲19%）だったが、一方、アヘン生産量は7,700t（前年比▲6%）で単位当たり生産量がむしろ増加している²。このようにアフガニスタンは世界のアヘンおよびヘロインの一大供給地になっており、アフガニスタン国内で生産されたケシやアヘンは、国内各地から国境へ運ばれ（図-1a、1b）、パキスタン、イラン、中央アジアを經由して世界各地に運び出されている。（図2）

以下については、図3も参照しつつ、各種情報を基に考察する。

90年代はアフガニスタンの東北部にあるBadakhshan州周辺がケシの作付面積・生産量が多く、ここから北のタジキスタンに麻薬が運び込まれていたと見られている（図-4）³。アフガニスタンとタジキスタンの国境は監視が行き届いていない範囲が広い（図-5）、また、タジキスタンの首都ドゥシャンベから遠く、当局の監視が及びにくい「世界の屋根」と言われるパミール高原（パミール・ハイウェイ）の利用は、密輸業者にとって好都合だったと思われる。こうしてキルギスのOshまで運ぶルートと、タジキスタンの中央を横断してキルギスのBatken州まで運ぶルートが一般的だったとされている⁴。（図-4：青のルート）

しかし、最近はBadakhshan州から持ち込むよりも、作付面積も多くなったTaloqan周辺地域から持ち込まれる方が多いとされている⁵（図-4）。理由は様々であろうが、輸送手段や輸送距離の比較、アフガニスタン国内のアヘン精製工場の場所、タジキスタン側の国境警備体制の綻び箇所等々が想定される。

キルギスのOsh市の北、Jalal-Abad州とウズベキスタンの国境近辺では麻薬の摘発が多いことから（図-6a②、6b②）、密輸ルートとして現在もパミール・ハイウェイが利用されていると思われるが（図-4：緑のルート）、欠点は、その標高の高さ（約3,500mから4,600m強）である。夏季（6月～10月）は通行上、特段支障はないが、冬季（11月～5月）になると、積雪・凍結のため殆ど閉鎖される由である⁶。そのため密輸代替ルートは、リスクは高まるが、幹線道路がある首都ドゥシャンベ周辺経由でKhujandに向かうルートとなる（図-4：赤のルート）⁷。Khujandからは、ウズベキスタンはタシケント州、Fergana州、キルギスはBatken州、Jalal-Abad州の各

¹ *Afghanistan Opium Survey 2008*, UNODC

² *Afghanistan Opium Survey 2008*, UNODC

³ <http://polosbastards.com/pb/tajikistan-series-drug-trafficking-pt-2-routes/>

⁴ <http://polosbastards.com/pb/tajikistan-series-drug-trafficking-pt-2-routes/>

⁵ <http://polosbastards.com/pb/tajikistan-series-drug-trafficking-pt-2-routes/>

⁶ <http://polosbastards.com/pb/tajikistan-series-drug-trafficking-pt-2-routes/>

⁷ <http://polosbastards.com/pb/tajikistan-series-drug-trafficking-pt-2-routes/>

方面に運ばれていると推察される⁸。こちらの標高は東部のパミール・ハイウェーに比べて若干低くなるものの、それでも3,000m強あるため、冬季はところどころ閉鎖される可能性もある⁹。図-7のとおり、ドゥシャンベ以北の幹線道路の整備状況はよいとはいえ、冬季は路面の凍結のほか雪崩や土砂崩れの恐れがあり、こちらのルートのもリスクも決して低くはないと考えられる。

現在、中国政府がドゥシャンベ以北～Khujandに至る道路の整備・改良を支援している¹⁰。一部区間はトンネルも掘削している由である。近い将来、このルートが整備されれば、冬季でも通行が可能になる見込みであり、そうすればウズベキスタン政府関係者が言うように、物流が飛躍的に増える可能性は高い。これはまた、密輸業者にとっても好都合となるはずである。

ここで、なぜアフガニスタンからタジキスタンを経由して麻薬等が密輸されるか、考察する¹¹。

- ① アフガニスタン北部とタジキスタン南部はタジク人が広く分布しており、言葉も通じるといわれる（図-8）。一方、CIS諸国はロシア語が通じるため、アフガニスタンから麻薬を他CIS諸国やロシアまで運むには、タジキスタン人を経由すればよいことになる。
- ② ここ数年で、タジキスタン－アフガニスタンに国境橋がいくつか架けられたが、これまではPyanj川をバージ船を使って両国間の物資輸送を行っており、また、タジキスタンのGorno-Badakhshan州東部の川国境の川幅は泳いで渡ることのできる箇所があるようであり、密輸入者の国境越えのハードルを低くしていると見られる。
- ③ タジキスタンのKhatlon州とGorno-Badakhshan州は貧困層が多い地域であり（図-9）、生活のために麻薬等の運び屋になる者も多いとされている。輸送方法は、車輦への隠匿、ロバやラクダの利用、飲み込み、女性や子供の利用などとされる。
- ④ タジキスタンの独立後、国境管理はロシアの国境警備隊（Border Guard Service of Russia）が担い、アフガニスタンとの国境であるKhatlon州、Gorno-Badakhshan州を特に警備し、麻薬密輸入者やイスラム過激派の取締りを行っていた。しかし、2006年にロシアが引き上げタジキスタン政府に国境管理を委譲した後、警備隊の給料が下がったため、タジキスタンの国境警備隊は、密輸者が賄賂を渡せば見逃すなど、モラルの著しい低下が見られるようになった。また近年は施設の老朽かも著しく、資機材の更新がなされていないため、適正な国境管理ができていない¹²。そのため、アフガニスタンからこの地域への麻薬密輸が容易になり、結果としてKhatlon州の摘発量はタジキスタン国内で最も多く（図-6a③、6b③）、また麻薬使用者人数も多い（図-10②）。

⁸ <http://polosbastards.com/pb/tajikistan-series-drug-trafficking-pt-2-routes/>

⁹ <http://polosbastards.com/pb/tajikistan-series-drug-trafficking-pt-2-routes/>

¹⁰ 下記ニュース記事参照：

http://economictimes.indiatimes.com/News/News_By_Industry/ET_Cetera/Building_roads_China_lays_path_to_power_in_Central_Asia/articleshow/3427239.cms

<http://www.eurasianet.org/departments/insight/articles/eav080107a.shtml>

<http://tajikistan.neweurasia.net/2007/07/09/chinese-road-constructor-are-threat-to-reptiles-in-tajikistan/>

¹¹ <http://polosbastards.com/pb/tajikistan-series-drug-trafficking-pt-2-routes/>

¹² タジキスタン国「ハトロン州国境管理能力強化計画」予備調査帰国報告会資料

次に、アフガニスタンから中央アジア諸国全体に、どのような経路で麻薬等が運ばれているのか、考察する¹³。

ヘロインとアヘンの摘発量についてみると、いずれもタジキスタンが圧倒的に多いことが分かる。つまり、タジキスタンは常に麻薬の供給を手伝わされているといえる（表-1、表-2）。これだけ摘発していれば、タジキスタン政府当局の能力を評価すべきかも知れないが、逆に氷山の一角とも考えられる。

UNODC の報告書「COMPENDIUM Drug Related Statistics (June 2008)」を基に、タジキスタン、ウズベキスタン、キルギス、カザフスタンの各国の摘発実績（図-6a①～6a④、図-6b①～6b③）を組み合わせて麻薬密輸ルートを推測すると、図-6a（ヘロイン）、図-6b（アヘン）のような動きがパターンとして浮かび上がってくる。これによると、多くの麻薬がタジキスタンを經由してキルギス、カザフスタン、ロシアへ運ばれているが、ウズベキスタンにも Termez 近辺に運び込まれていることが分かる（図-6a④）。このように、タジキスタンだけではなく、ウズベキスタンを經由するケースもあるものと推測できる。

ウズベキスタンおよび周辺国の麻薬密輸状況について間接的に考察する際、2つの指標が参考になる。

一つは麻薬使用者の統計である（図-10①）。Termez がある Surkhandarya 州、タジキスタンの Pendzhikent と国境を接している Samarkand 州、タジキスタンの Khujand と国境を接しているタシケント州、それに Fergana 州、Andijan 州などの国境州は、いずれも麻薬使用者数が多い地域である。ウズベキスタンの人口は他 CIS 諸国に比べ一番多い一方で、若年層が全人口に占める割合が大きい（人口の 35%が 14 歳以下の児童）¹⁴。新規に登録される麻薬中毒患者数もカザフスタンに次いで多く、近年増えていることから、麻薬の汚染状況は深刻といえる¹⁵。また、図-10②～10④が示すように、タシケント州周辺の国境州（タジキスタンの Sogd 州、キルギスの Batken 州、カザフスタンの南カザフスタン州・Zhambyl 州）の麻薬使用者数も各国内で際立っている

もう一つ指標として使えるのが、麻薬に関連する犯罪件数の統計である。ウズベキスタンはカザフスタンに次いで多く、また年々増えている（表-3）。特に麻薬密売の摘発件数（5,157 件）が多いが、麻薬の密輸件数（284 件）も増えている（表-4）。このことはウズベキスタン国内において、何らかの組織的な関与があることを示唆するものと考えられる。タジキスタンにおいては、タシケント州に隣接する Sogd 州の麻薬関連犯罪件数が突出している一方（図-11）、カザフスタンにおいても南カザフスタン州、Zhambyl 州の麻薬関連犯罪件数は多い（図-12）。いずれも、タシケント州にとっては麻薬流入のリスクの高さを示すものといえよう。

次に、ウズベキスタン国内における麻薬輸送ルートについて考察する。

¹³ 他に大麻、ハシシといった麻薬取引も行われているが、前者についてはカザフスタンやキルギスでも野生で大規模に自生していること、後者については取引の絶対量が少ないことから、ここでは割愛する。

¹⁴ <http://www.prb.org/Countries/Uzbekistan.aspx>

¹⁵ COMPENDIUM Drug Related Statistics (June 2008), UNODC

状況証拠による推察だが、タシケント州で摘発された麻薬の中には、Termez から運ばれてきたものも当然あると思われるものの、隣接するタジキスタンの Sogd 州から入ってくるものが殆どではないかと考えられる。その理由は以下のとおり。

- ・ 国境警備・税関体制が比較的整備されているウズベキスタン国内を、密輸業者がわざわざリスクを背負って Termez からタシケント州まで運ぶことはやや考えにくい。実際、その際のルートにあたるであろう Samarkand 州、Jizzakh 州、Syrdarya 州では麻薬の摘発実績がない（図-6a④）。むしろ、国境警備や税関職員の末端レベルで汚職が蔓延しているとされるタジキスタン¹⁶国内を南から Khujand まで運び、そこからタシケント州経由でカザフスタンに運んだほうが、密輸業者にとって輸送リスクは低いと考えられる。
- ・ ただし、冬季にドウシャンベ以北ルートが長期に閉鎖されてしまう場合は、密輸業者がウズベキスタン国内ルート（Termez からタシケント州へ運ぶ）を選択することは可能性としてはあると思われる。しかし、こういった動線をデータで検証することは困難である。
- ・ UNODC の報告書によると、殆どの麻薬の最終目的地がロシアである¹⁷。その前提に立つと、Termez（Surkhandarya 州）周辺地域での摘発量が多く、タシケント州に向かう方面での摘発が少ないことを考えると、Termez に入ってくる麻薬はウズベキスタン国内消費向けのものと考えられる。
- ・ カザフスタンにおけるヘロインとアヘンの摘発実績を見ると、タシケント州の北に隣接する南カザフスタン州、その隣の Zhambyl 州の摘発実績が比較的多い（図-6a①、6b①）。つまり、この近辺で麻薬の流出入が頻繁に起こっていると推測され、ウズベキスタン Fergana 州～キルギス Jalal-Abad 州～Chui 州～カザフスタン Zhambyl 州というルートとならび、タシケント州～南カザフスタン州に流入するルートの存在が想定される。このように、南カザフスタン州、タシケント州、Fergana 州、Andijan 州、Sogd 州一帯は、図-10 のとおり、麻薬汚染地域ともいえる。

これら考察は、改めて図 3 を参照・比較しても、ほぼ当てはまると考えられる。

最後に、これまでの考察を踏まえ、Oybek における大型 X 線機器導入の妥当性を検討する。

ウズベキスタン政府にとって、アフガニスタンとの国際国境税関である Termez の国境管理を強化し、そこから流入している麻薬を摘発することで、Termez および周辺地域の麻薬汚染を阻止することは重要である。Termez に大型 X 線機器を設置すれば、密輸業者としてはこれまでも利用していたタジキスタン領内ルートに特化せざるを得ないと考えられる。これまで見たように、既にタジキスタン領内の麻薬密輸ルートが確立されていることから、ウズベキスタン政府にとってタジキスタンとの国境管理は対アフガニスタンと同様、極めて重要である。ウズベキスタン政

¹⁶ <http://polosbastards.com/pb/tajikistan-series-drug-trafficking-pt-2-routes/>

¹⁷ *COMPENDIUM Drug Related Statistics (June 2008)*, UNODC によると、キルギス経由のヘロインは 60%、タジキスタン経由のヘロインは 80%が、それぞれロシア向けであった。同様にキルギス経由のアヘンは 45%、タジキスタン経由のアヘンは 80%が、それぞれロシア・欧州向けであった。なお、キルギスへは殆どがタジキスタンを經由して運び込まれている。

府が指定するハイ・リスク国境税関 10 ヶ所のうち、タジキスタンとの国境は、Oybek（タシケント州）、Zhartepa（ジャルテパ：サマルカンド州）、Sariocuyo（サリオシヨ：スルハンダリヤ州。なお、ガラバ駅に鉄道用 X 線機器を導入することで検査は可能となる見込み。）、Aidarkhan（アイダルハン：フェルガナ州）、Dustlik（ドゥストリク：アンディジャン州）があるが、中でも、Khujand や Buston（タジキスタン国内でアヘンの摘発量が多い都市の一つ：図-6a③）に近く、タジキスタンからウズベキスタンを経由してカザフスタンに抜けていると思われる密輸ルート上にあると思われる Oybek 国境税関が、麻薬流入阻止の要衝に位置付けられる。2008 年 12 月発の大臣会議令が Oybek とアイダルハンを国境管理強化対象先としていることを踏まえれば、ウズベキスタン政府の見解もこれまで見てきた各種データと整合性がある。従って、この麻薬汚染地域の管理・摘発を強化し、ウズベキスタンへの麻薬流入阻止の対策として、タシケント州への入り口である Oybek に大型 X 線機器を導入することの必要性和妥当性は高いといえる。

以上

図一1a アフガニスタン国内で生産されたケシの国内外の動き（各地域単位の生産量に対する輸送割合）（2007年）

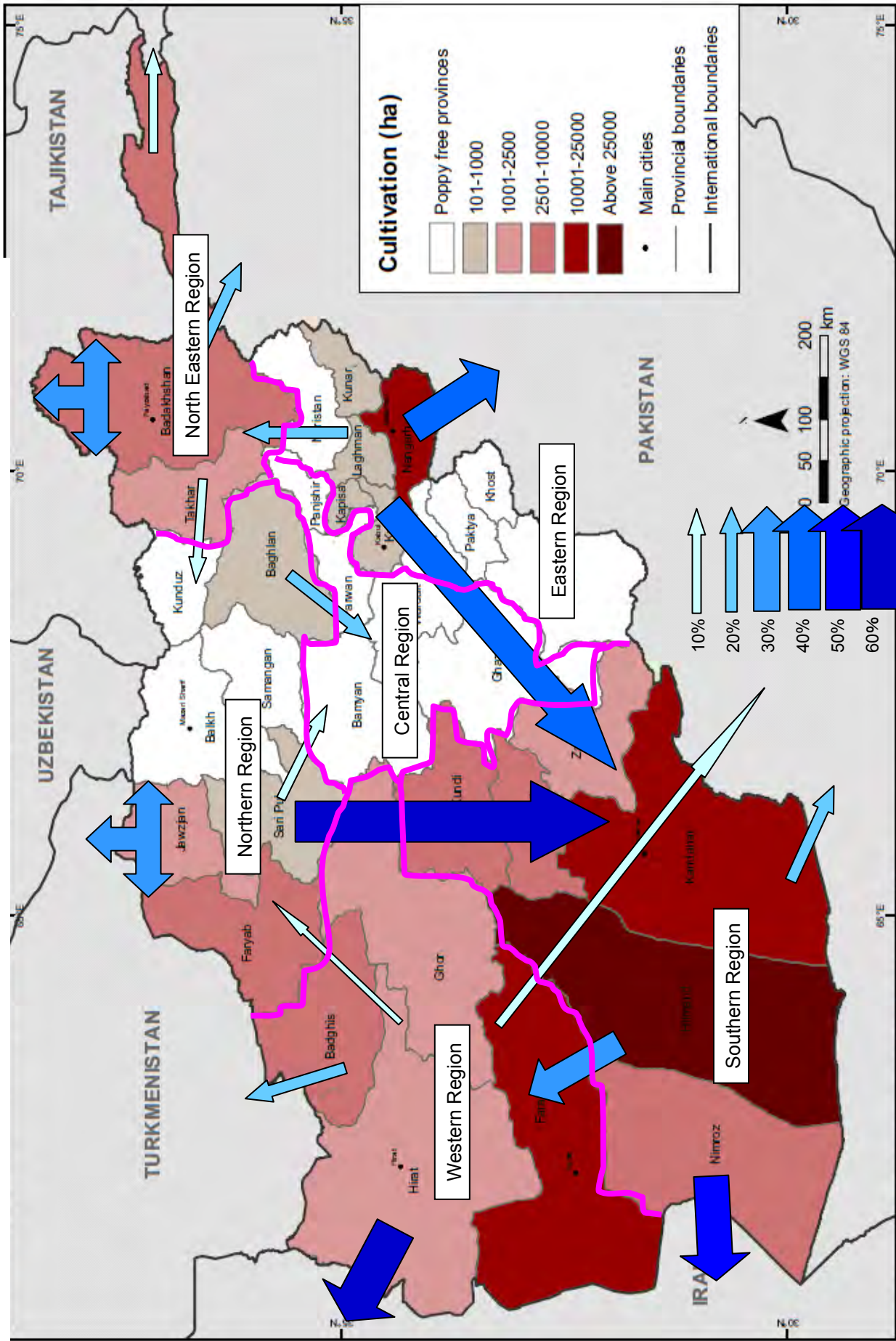


図1b アフガニスタン国内で生産されたヘロインの国内外の動き（各地域単位の生産量に対する輸送割合）（2007年）

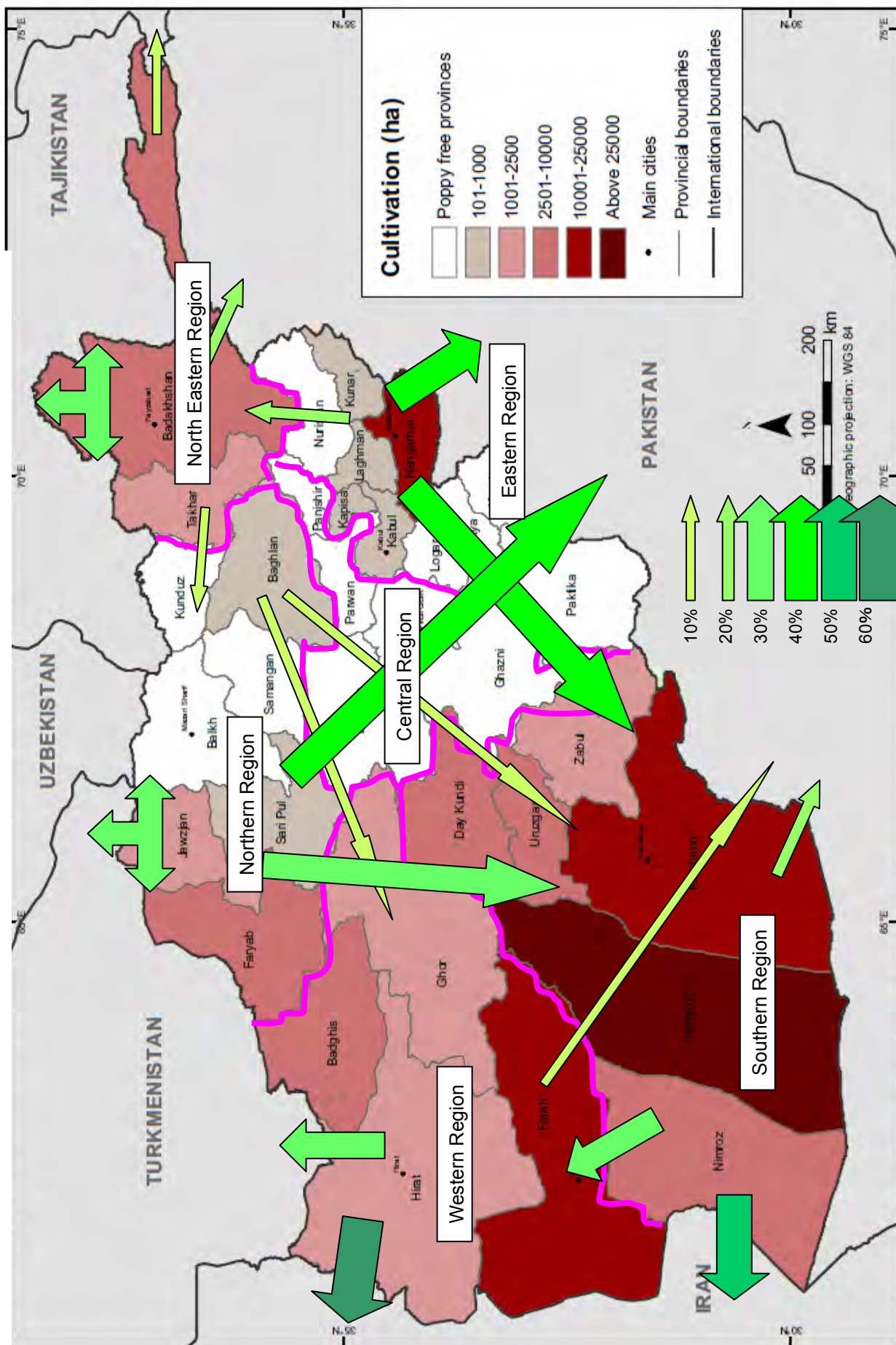
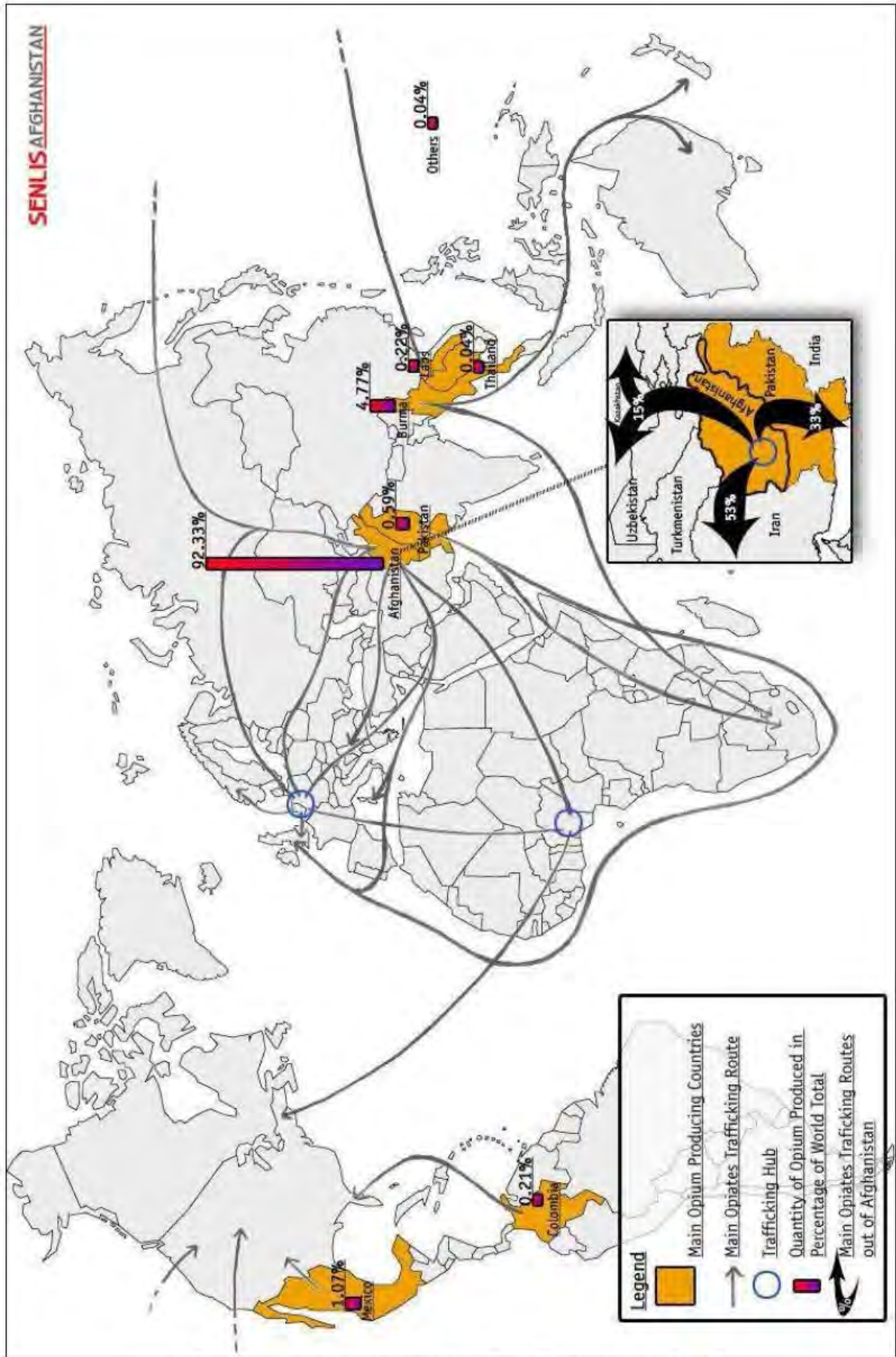


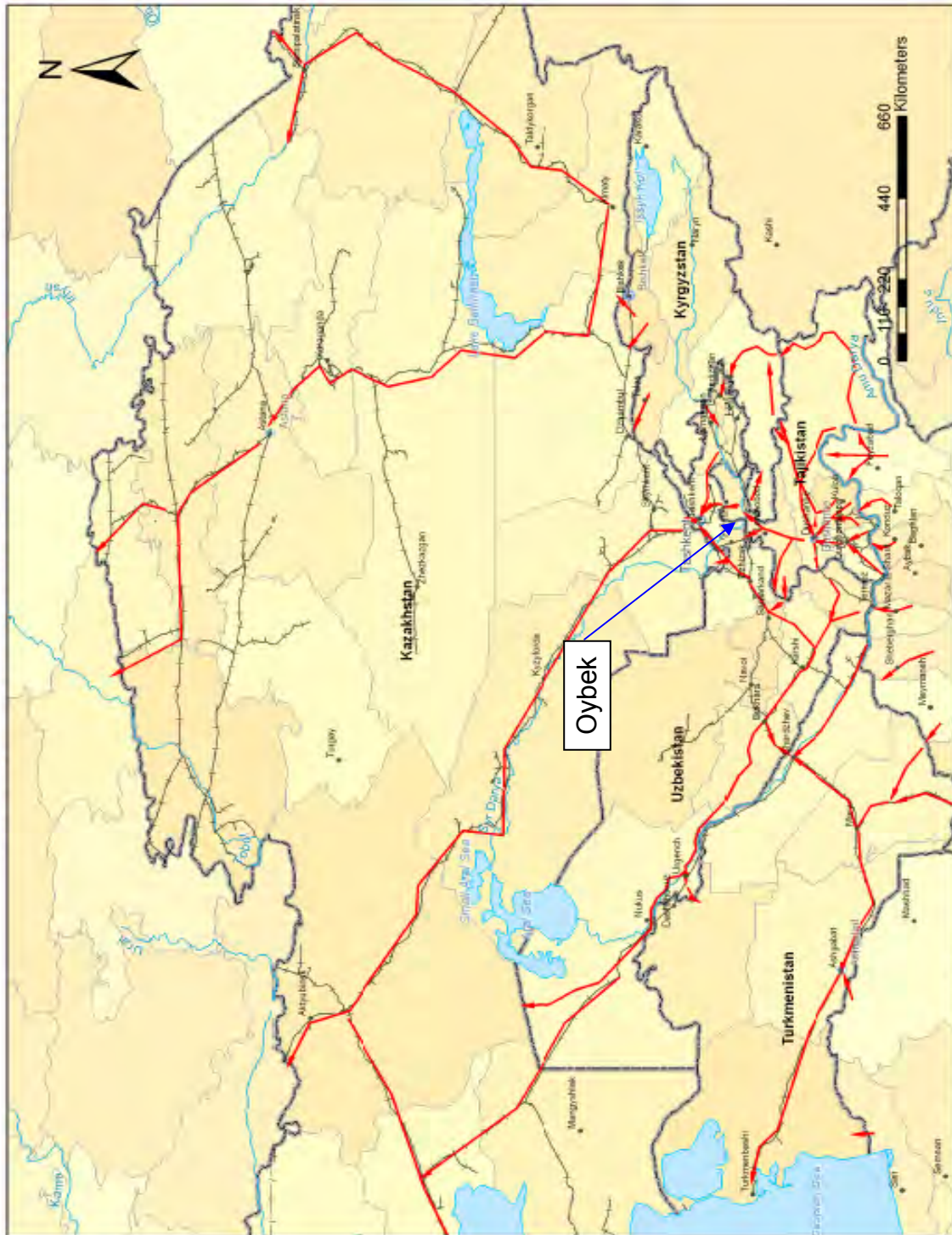
图-2



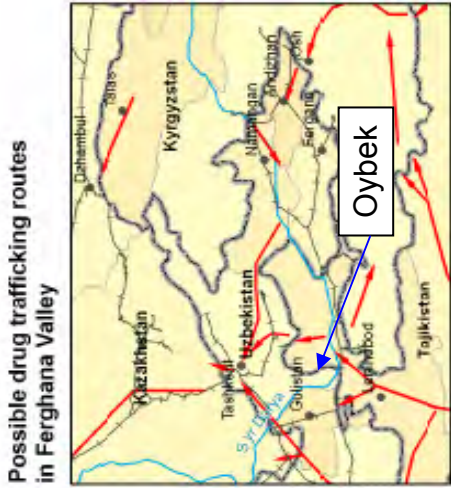
Main opium producing countries and trafficking routes (2006)

图-3

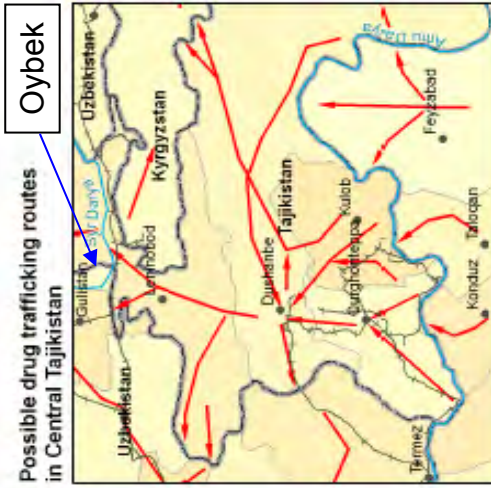
Likely routes of drug trafficking in Central Asia



Source : UNODC Regional office for Central Asia (ROCA)
 Note: The boundaries and names shown and the designations used on this map do not imply official endorsement or acceptance by the United Nations



Possible drug trafficking routes in Ferghana Valley

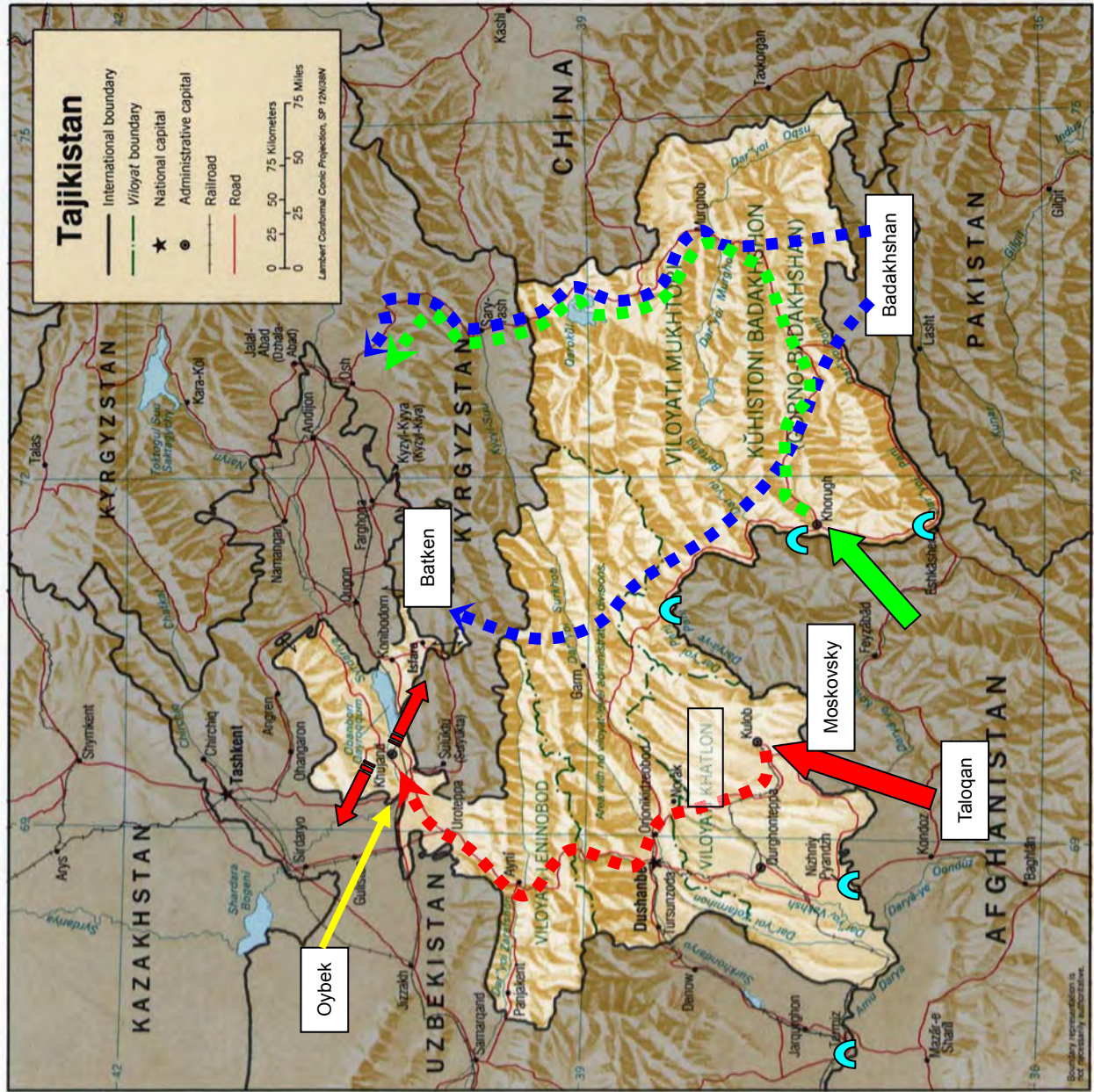


Possible drug trafficking routes in Central Tajikistan



出典 : COMPENDIUM Drug Related Statistics (July 2007), UNODC

図一4

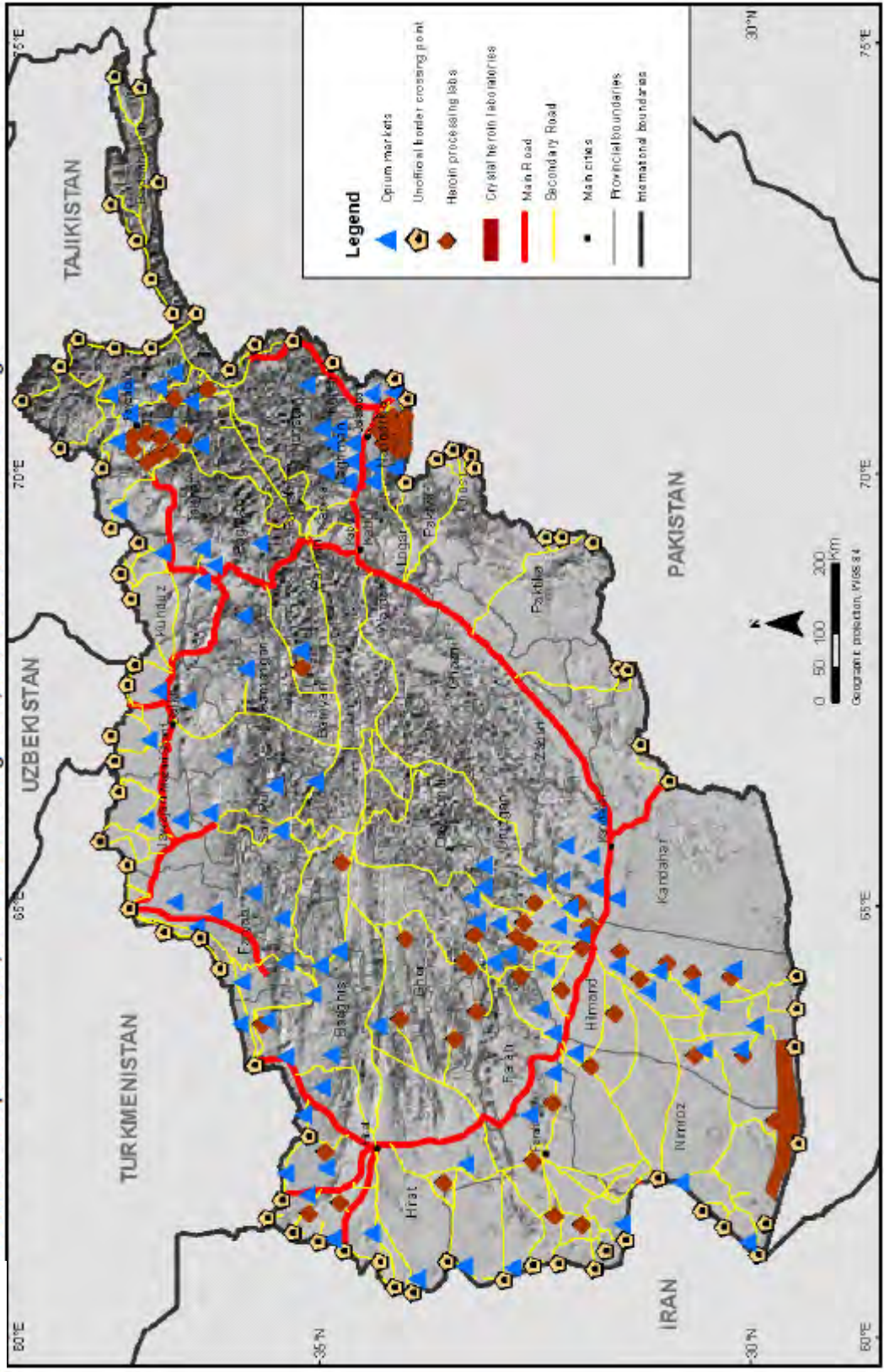


- 国境橋
- 旧密輸ルート
- 夏季の密輸ルート
- 冬季の密輸ルート
- 持ち込みルート

出典：COMPENDIUM Drug Related Statistics (June 2008), UNODC 他資料を基に調査団が作成

图-5

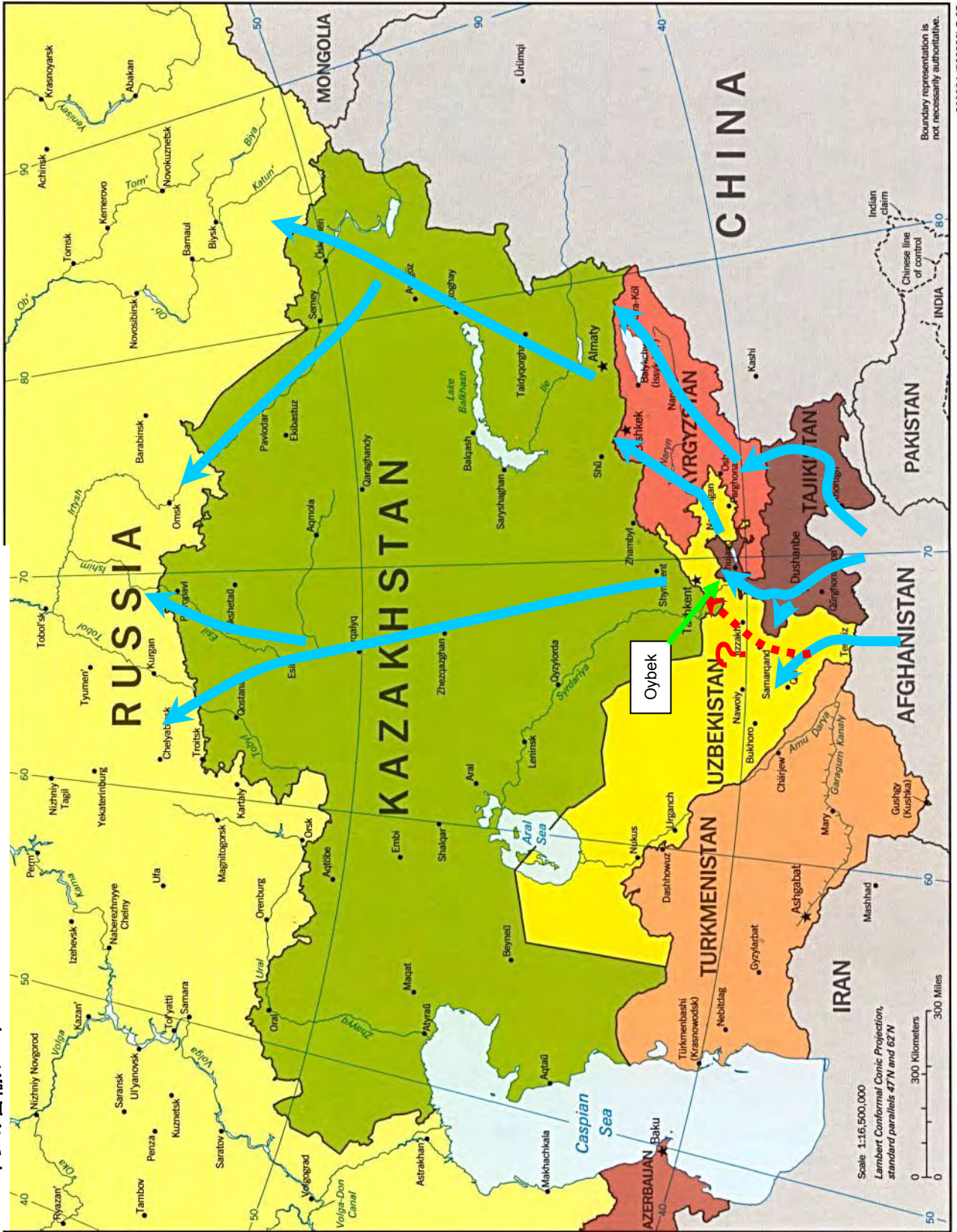
Locations of Opium Markets, Heroin Processing Labs, and Unofficial Border Crossings



出典 : Illicit Drug Trends in Afghanistan (June 2008), UNODC

図-6a

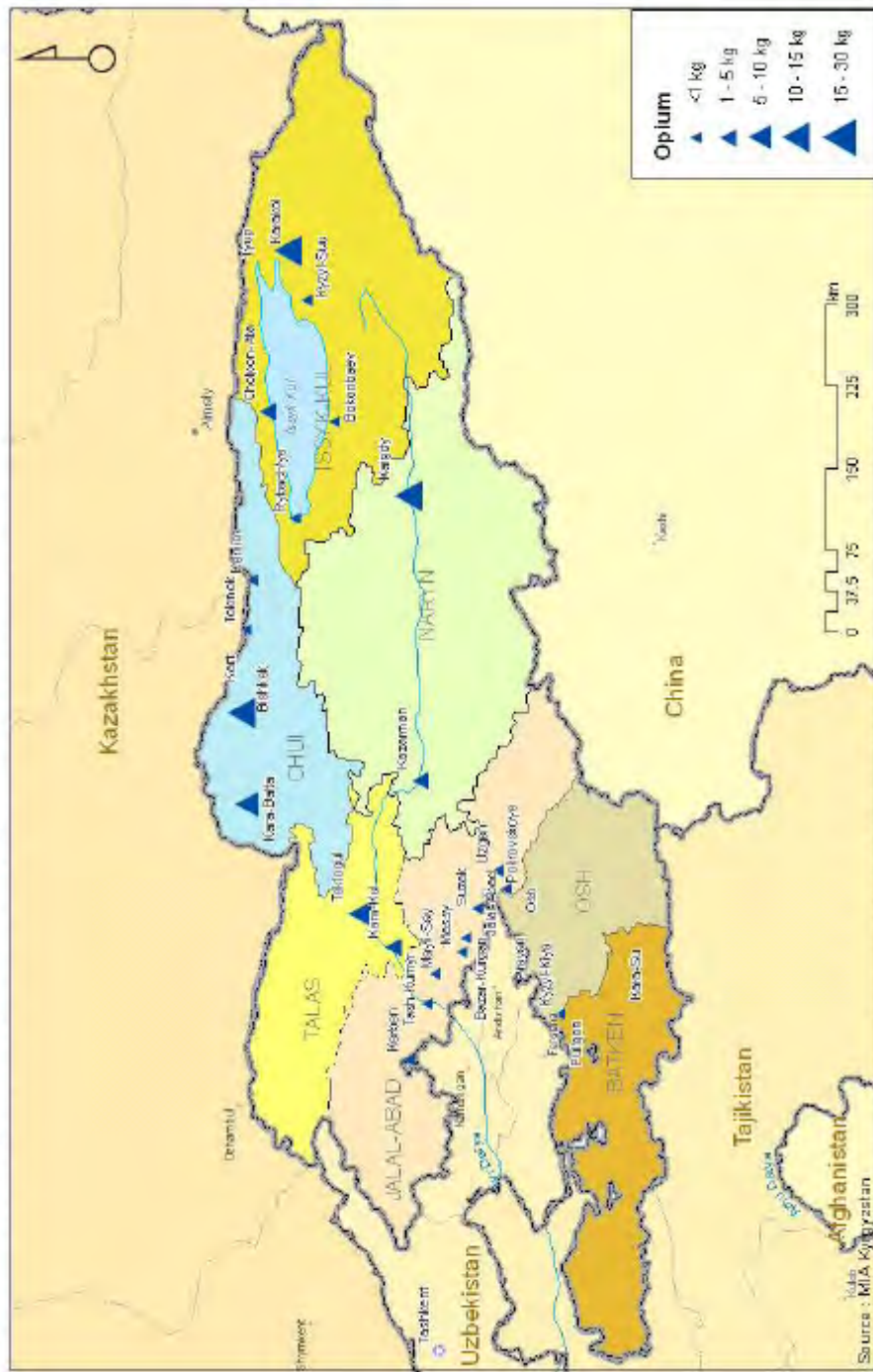
ヘロインの密輸ルート



出典：COMPENDIUM Drug Related Statistics (June 2008), UNODC を基に調査団が作成 (図-6a①～6a④)

图—6a2

Map 2. Heroin seized by the Ministry of Interior of Kyrgyzstan, first eleven months of 2007



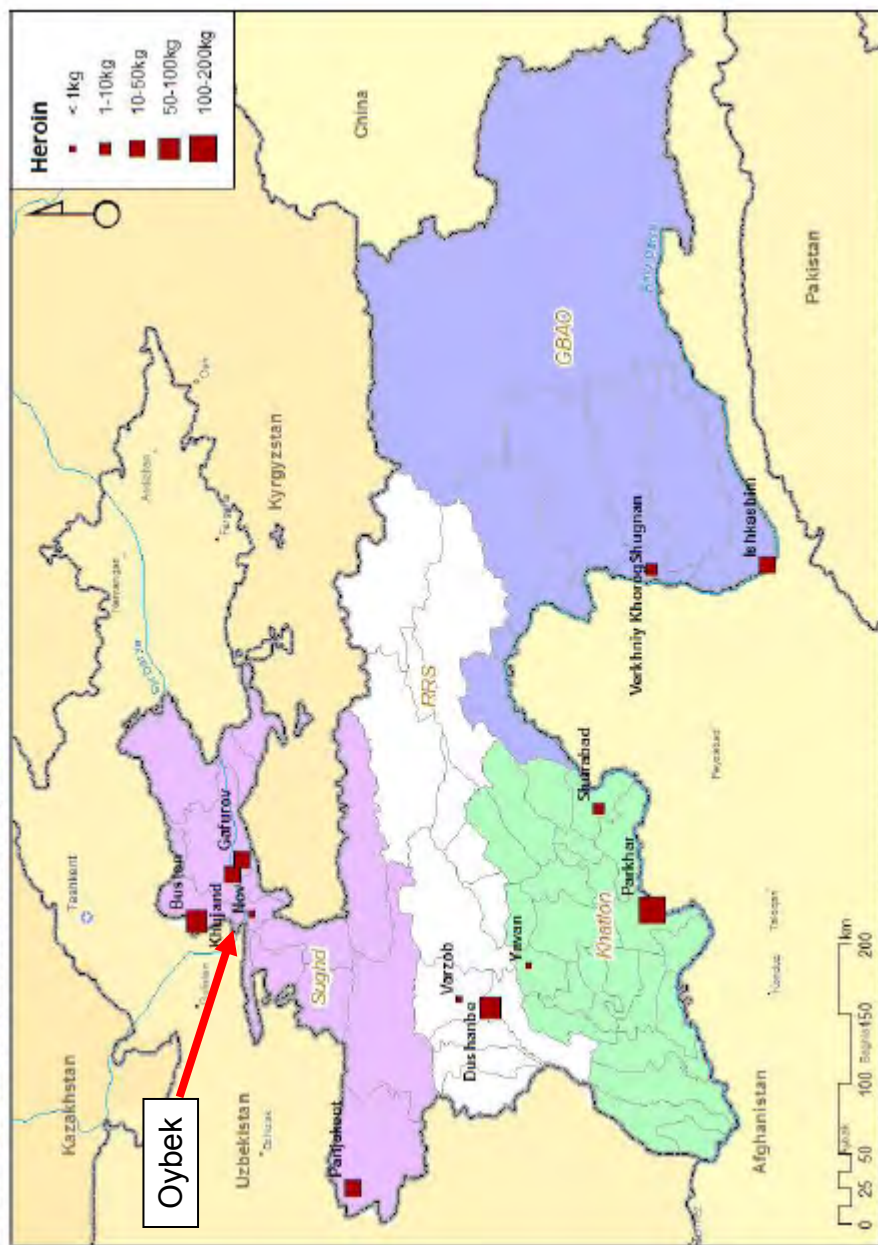
The boundaries and names shown and the designations used on this map do not imply official endorsement or acceptance by the United Nations.

Source: Ministry of the Interior of the Kyrgyz Republic

出典：COMPENDIUM Drug Related Statistics (June 2008), UNODC

图—6a③

Map 3. Heroin seized by the Drug Control Agency of Tajikistan, 2007



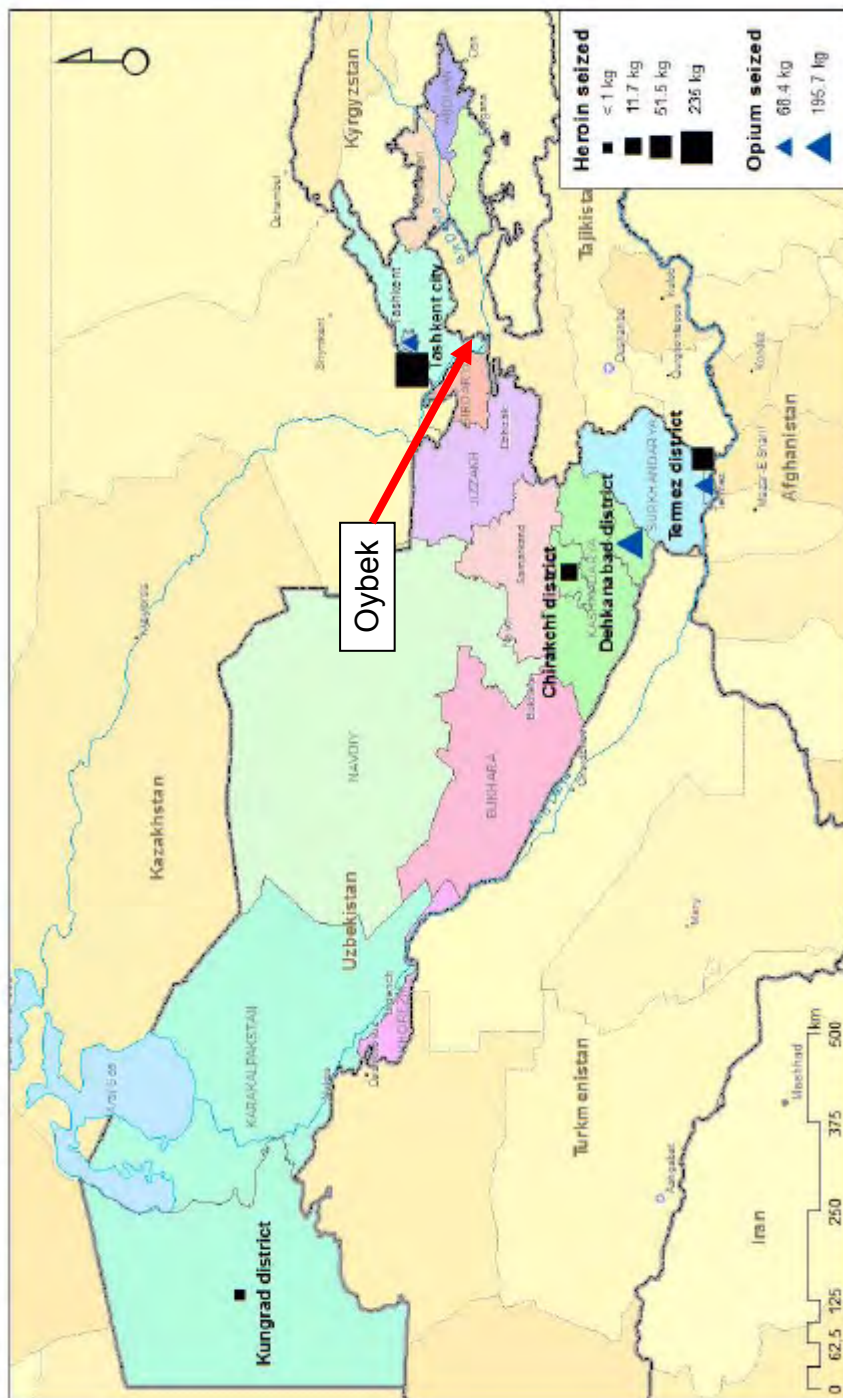
The boundaries and names shown and the designations used on this map do not imply official endorsement or acceptance by the United Nations.

Source: Drug Control Agency under the President of the Republic of Tajikistan

出典：COMPENDIUM Drug Related Statistics (June 2008), UNODC

图—6a④

Map 4. Largest opiates seizures in Uzbekistan, 2007

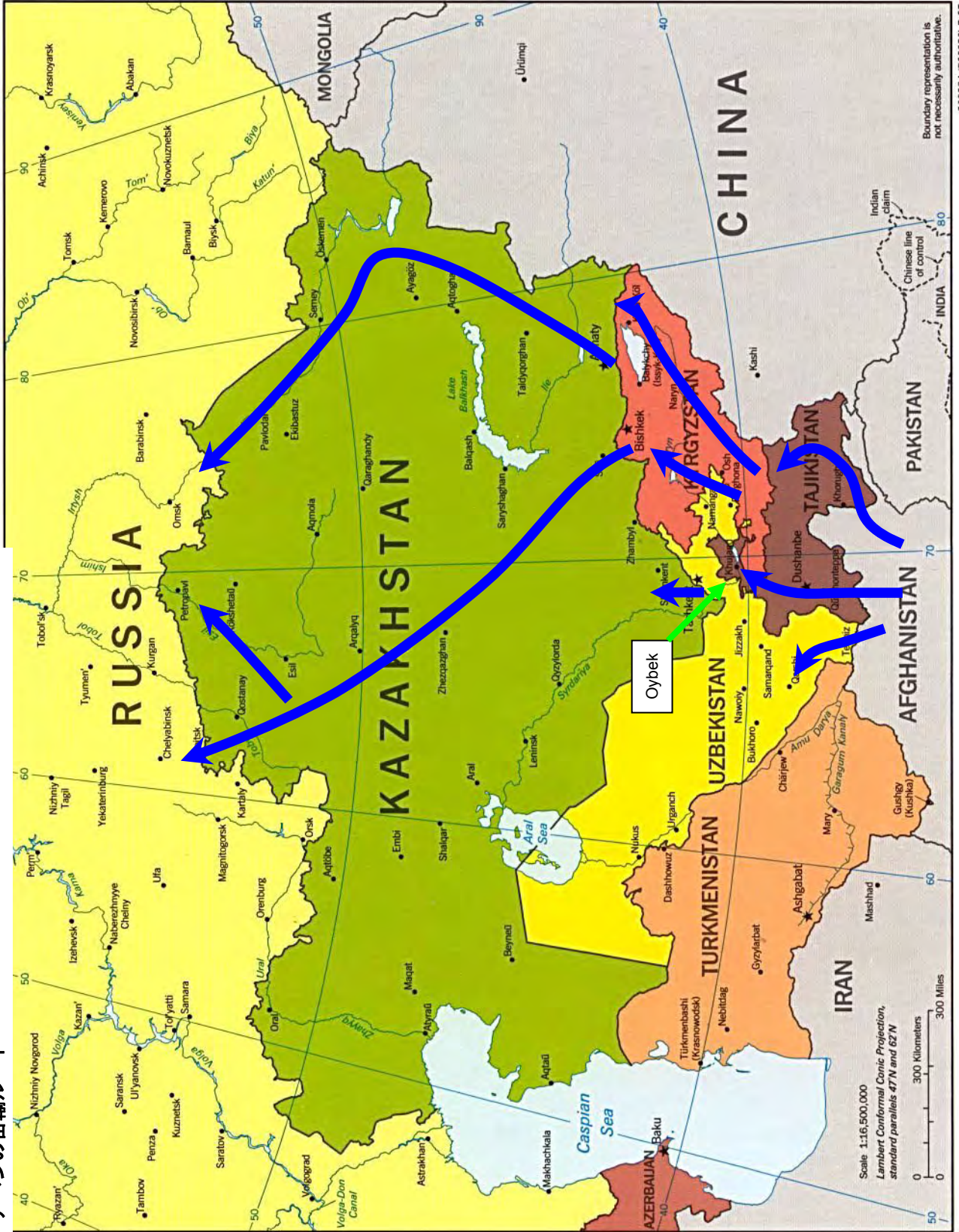


The boundaries and names shown and the designations used on this map do not imply official endorsement or acceptance by the United Nations.

Source: National Information and Analysis Centre for Drug Control, Uzbekistan

出典：COMPENDIUM Drug Related Statistics (June 2008), UNODC

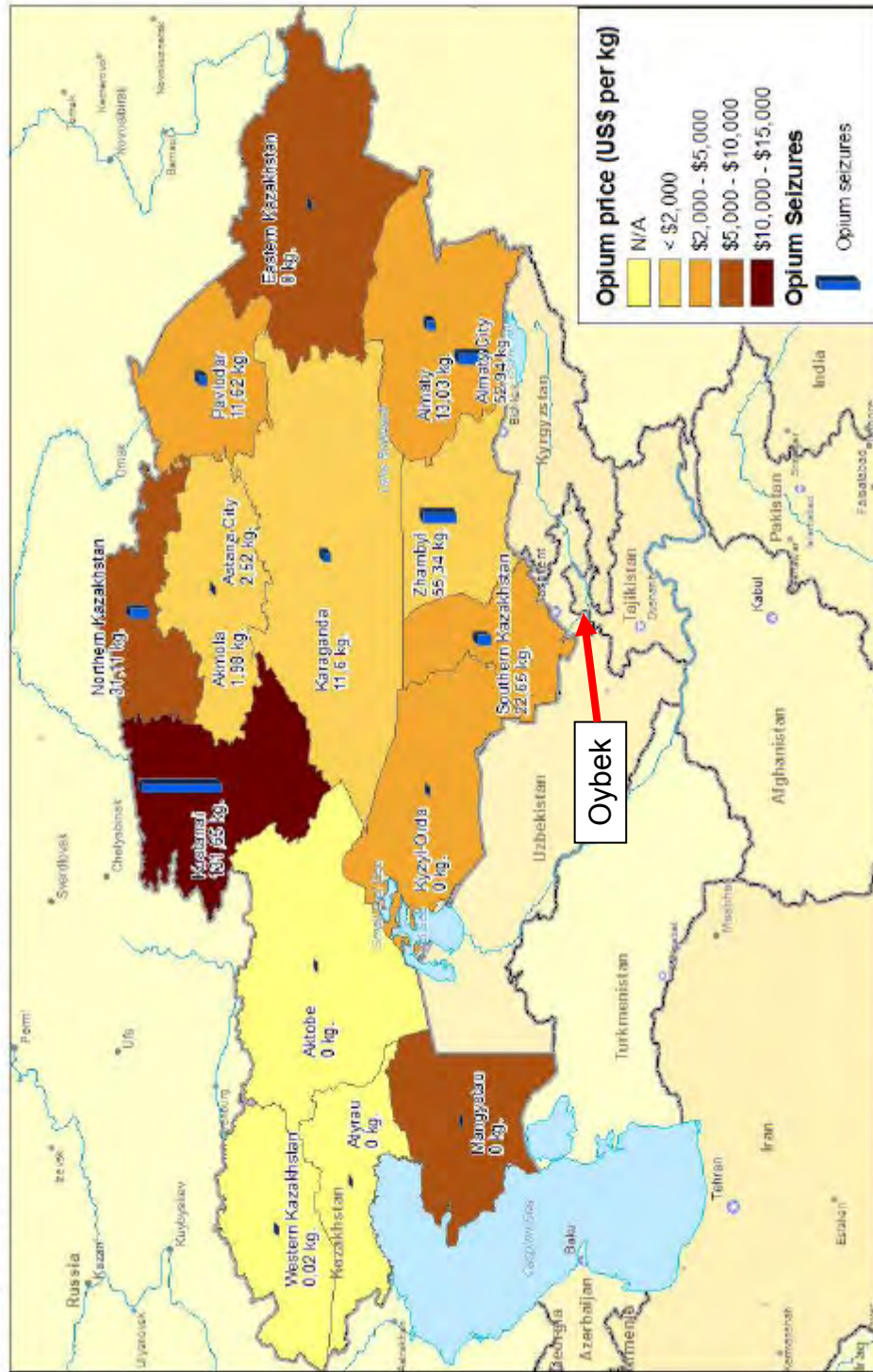
図一6b
アヘンの密輸ルート



出典：COMPENDIUM Drug Related Statistics (June 2008), UNODC を基に調査団が作成 (図一6b①～6b③、図一6a④)

图-6b①

Map 5. Opium seizures in Kazakhstan, by province, 2007

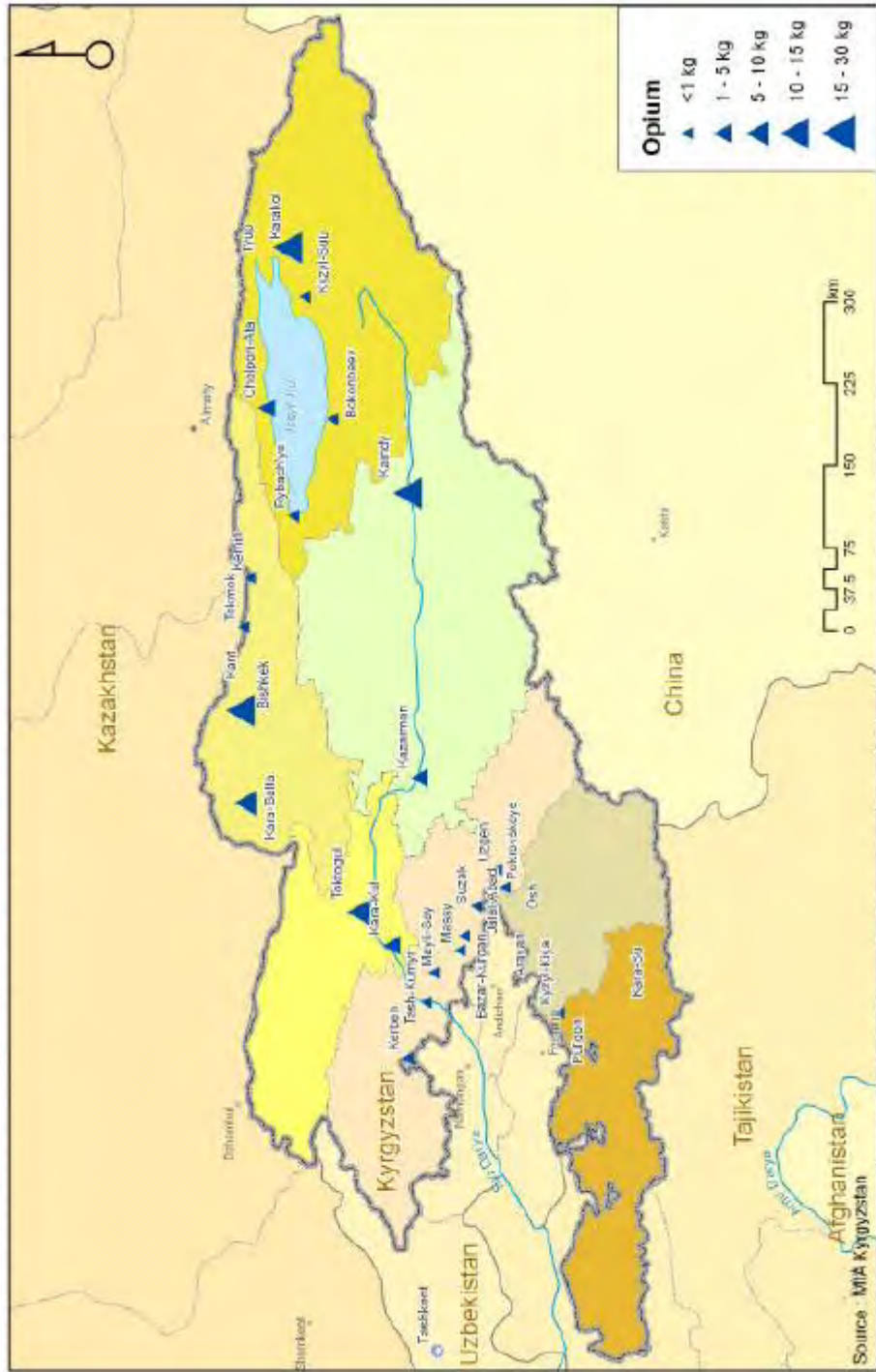


Source: Committee for Drug Trafficking Prevention and Drug Control, Ministry of the Interior

出典：COMPENDIUM Drug Related Statistics (June 2008), UNODC

图—6b②

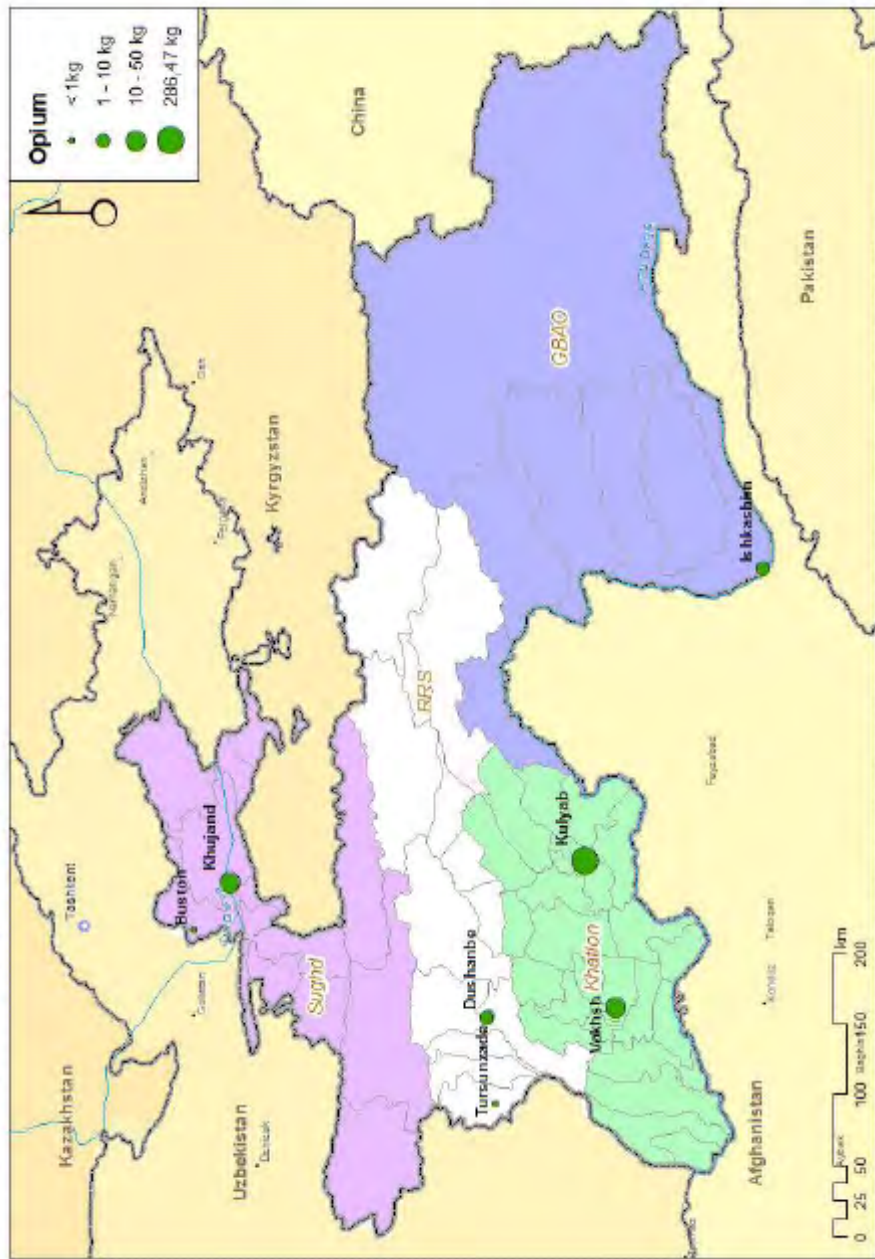
Map 6. Opium seized by the Ministry of the Interior in Kyrgyzstan, first 11 months of 2007



出典：COMPENDIUM Drug Related Statistics (June 2008), UNODC

图-6b③

Map 7. Opium seized by the Drug Control Agency in Tajikistan, 2007

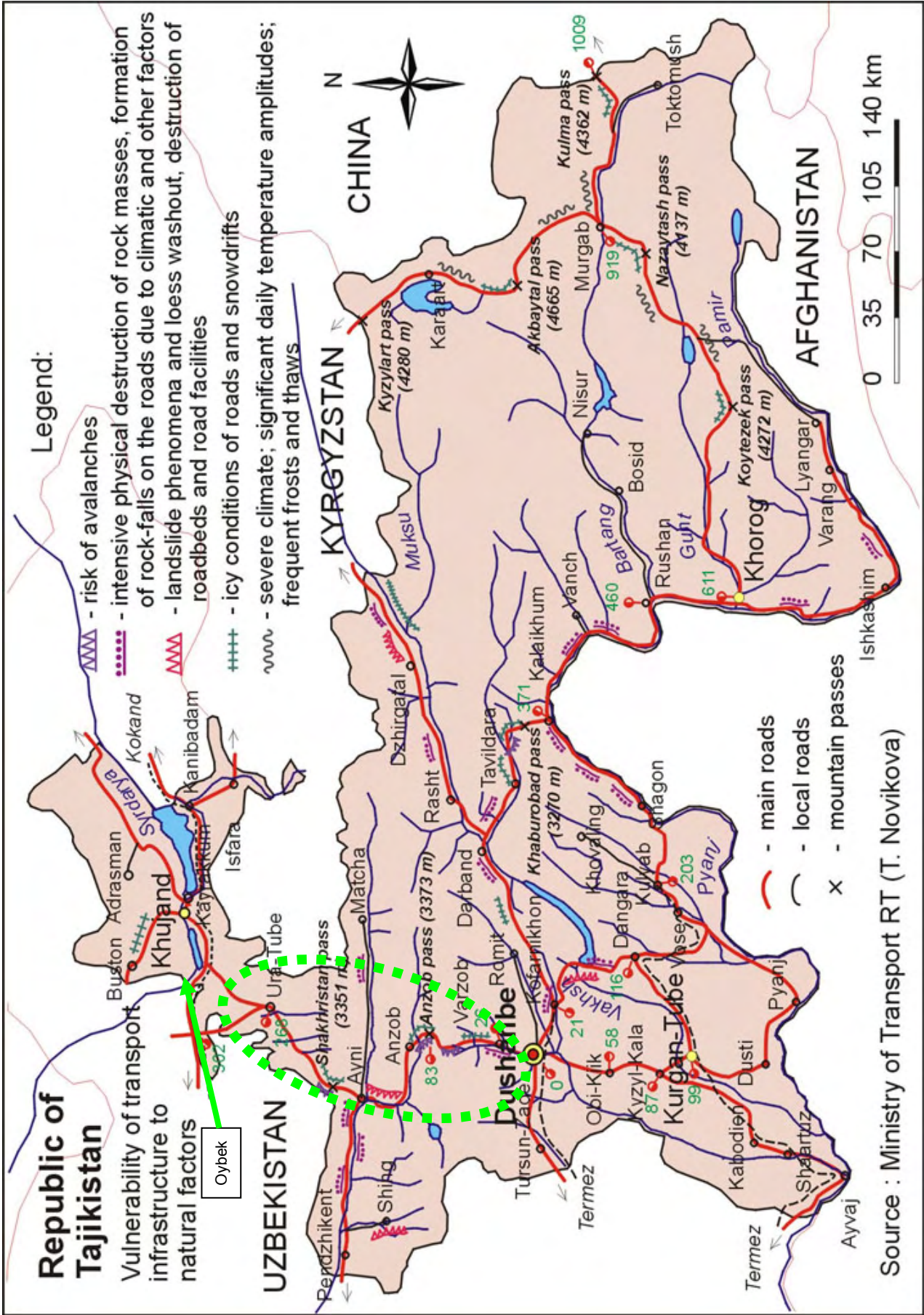


The boundaries and names shown and the designations used on this map do not imply official endorsement or acceptance by the United Nations.

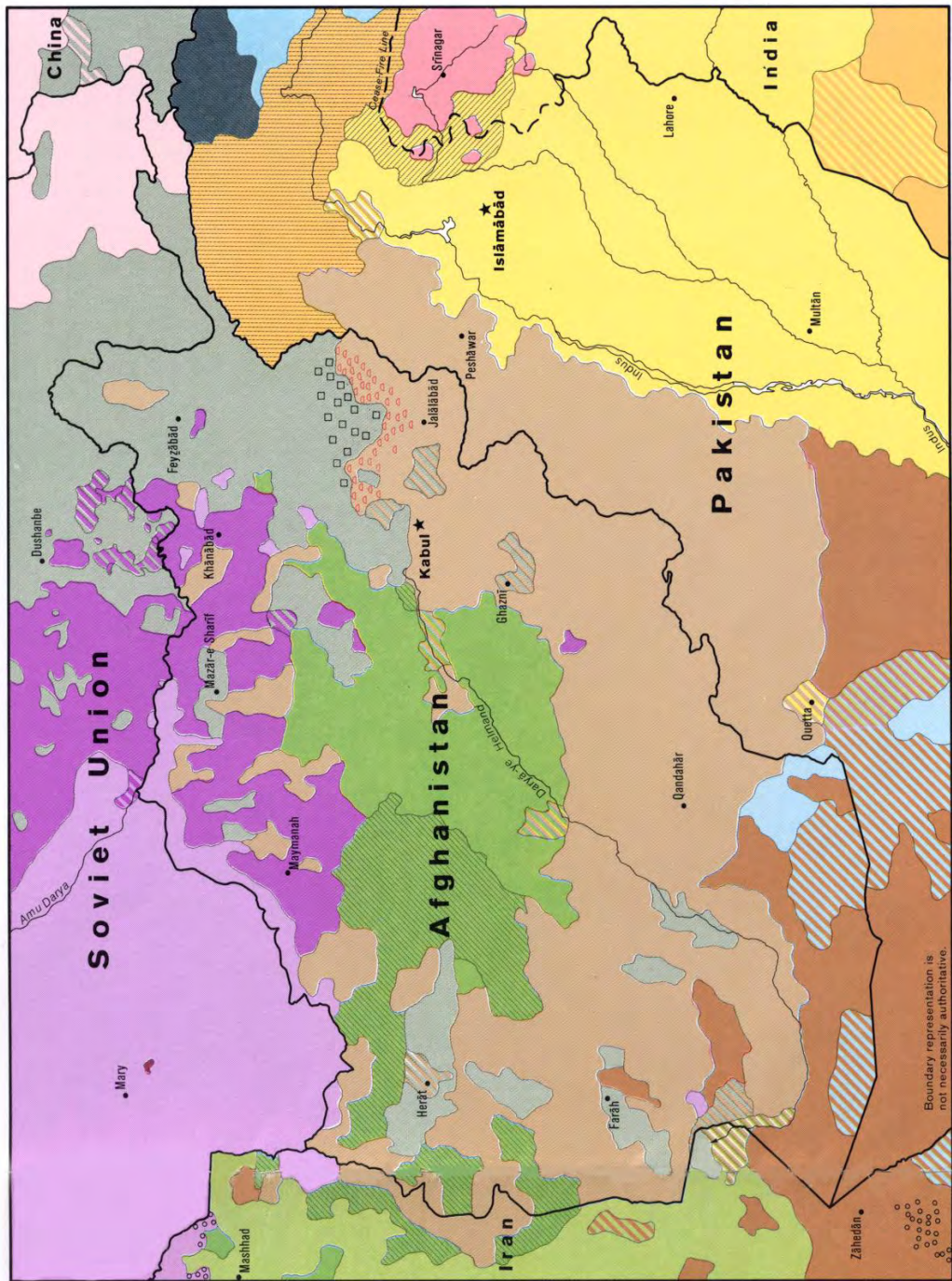
Source: Drug Control Agency under the President of the Republic of Tajikistan

出典：COMPENDIUM Drug Related Statistics (June 2008), UNODC

图一7



出典 : <http://www.unij.org/maps/> を基に、一部加筆



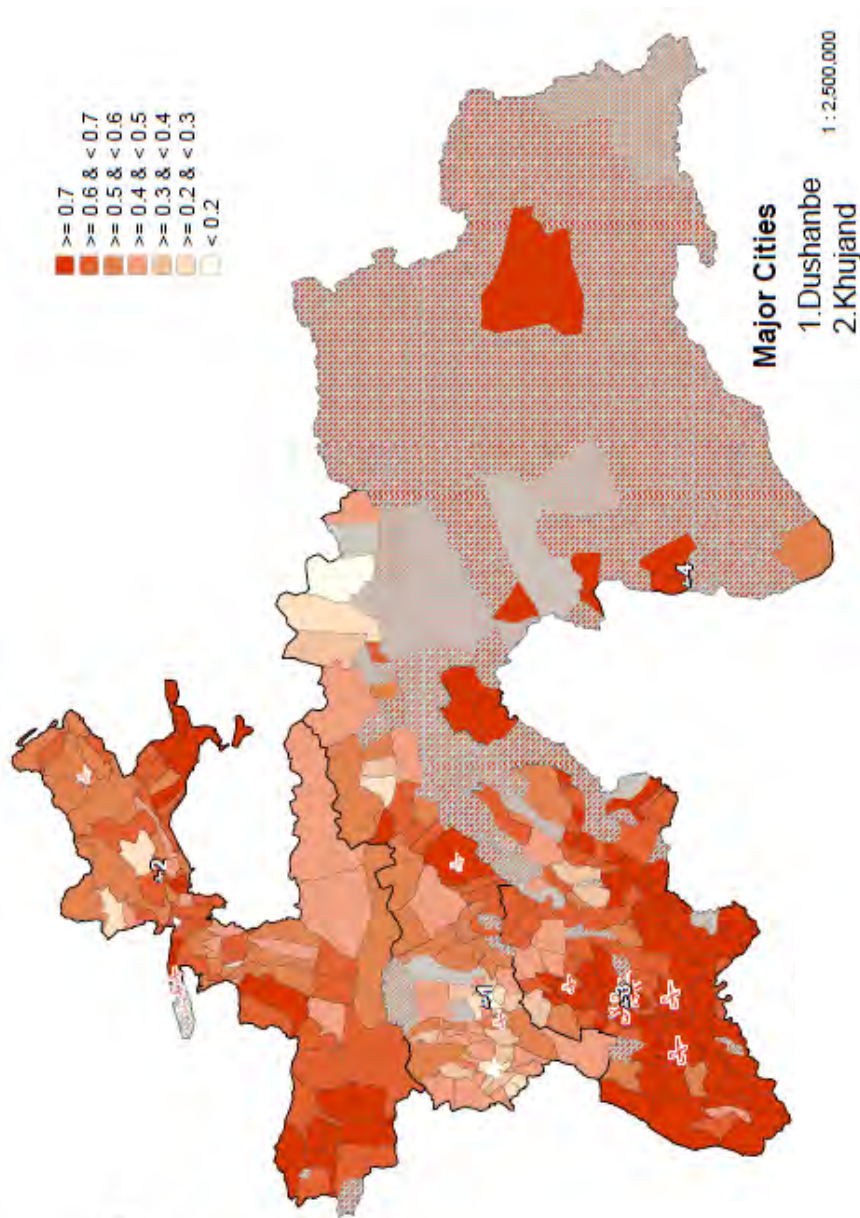
Ethnolinguistic Groups

- IRANIAN**
 - Baluch / Beluchi
 - Chahar Aimak
 - Hazara
 - Kurd
 - Pashtun/ Pushtun
 - Persian
 - Tajik
 - TURKIC**
 - Kirghiz
 - Turkmen
 - Uzbek
 - INDIAN**
 - Kashmiri
 - Kho and Shina
 - Pashai
 - Punjabi
 - Rajasthani
 - Sindhi
 - OTHER**
 - Balti
 - Brahui
 - Burishi
 - Nuristani
- Baluch and Pashtun are the preferred spellings in Afghanistan*
- 0 50 100 Kilometers
0 50 100 Miles

图-9

Percentage of population whose level of daily consumption is below the poverty line.

The absolute poverty line of 47.06 Somoni per month (\$2.15 PPP a day) was used.



出典 : <http://www.reliefweb.int/rw/RWB.NSF/db900SID/AHAA-6KJUUY?OpenDocument>

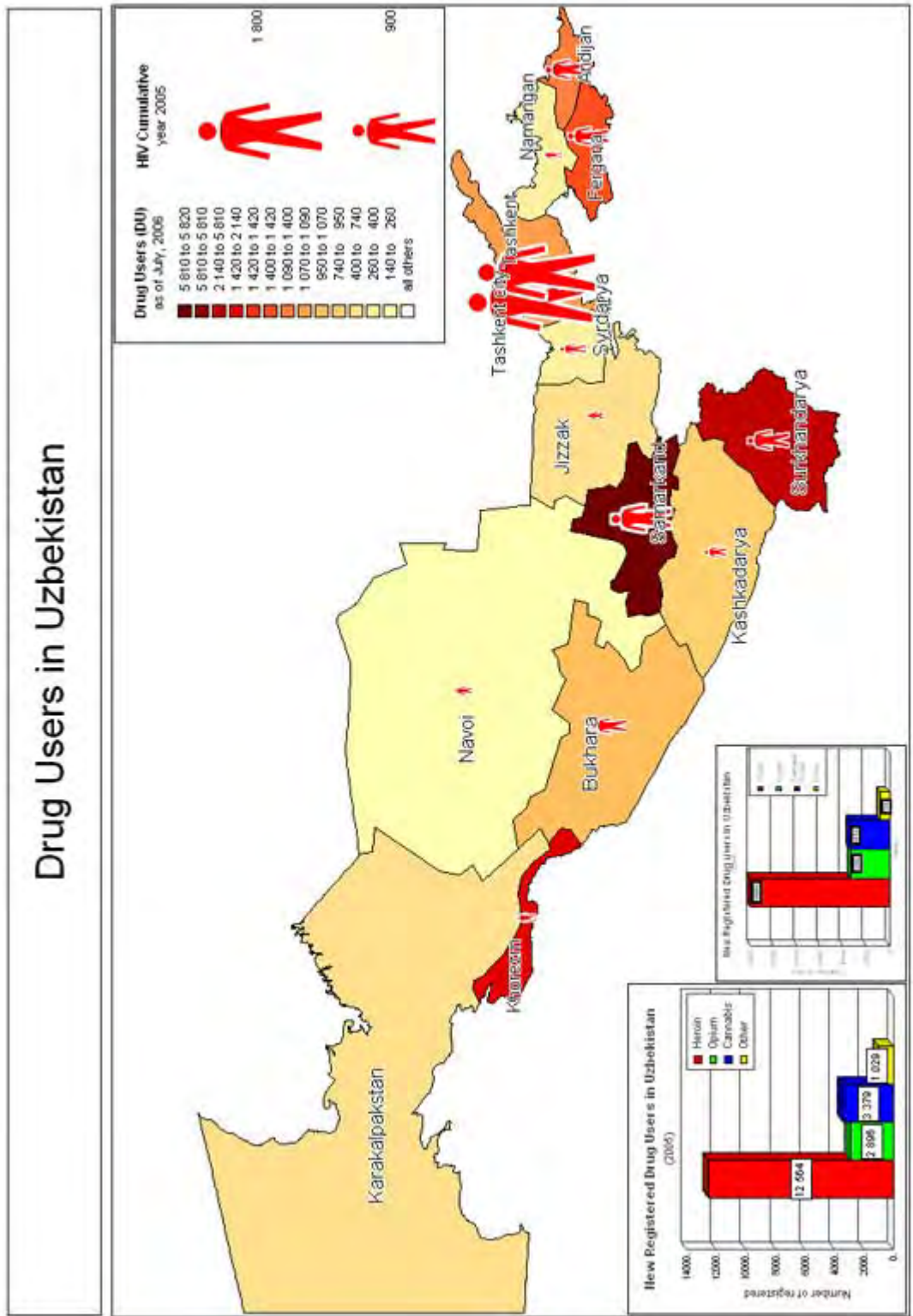
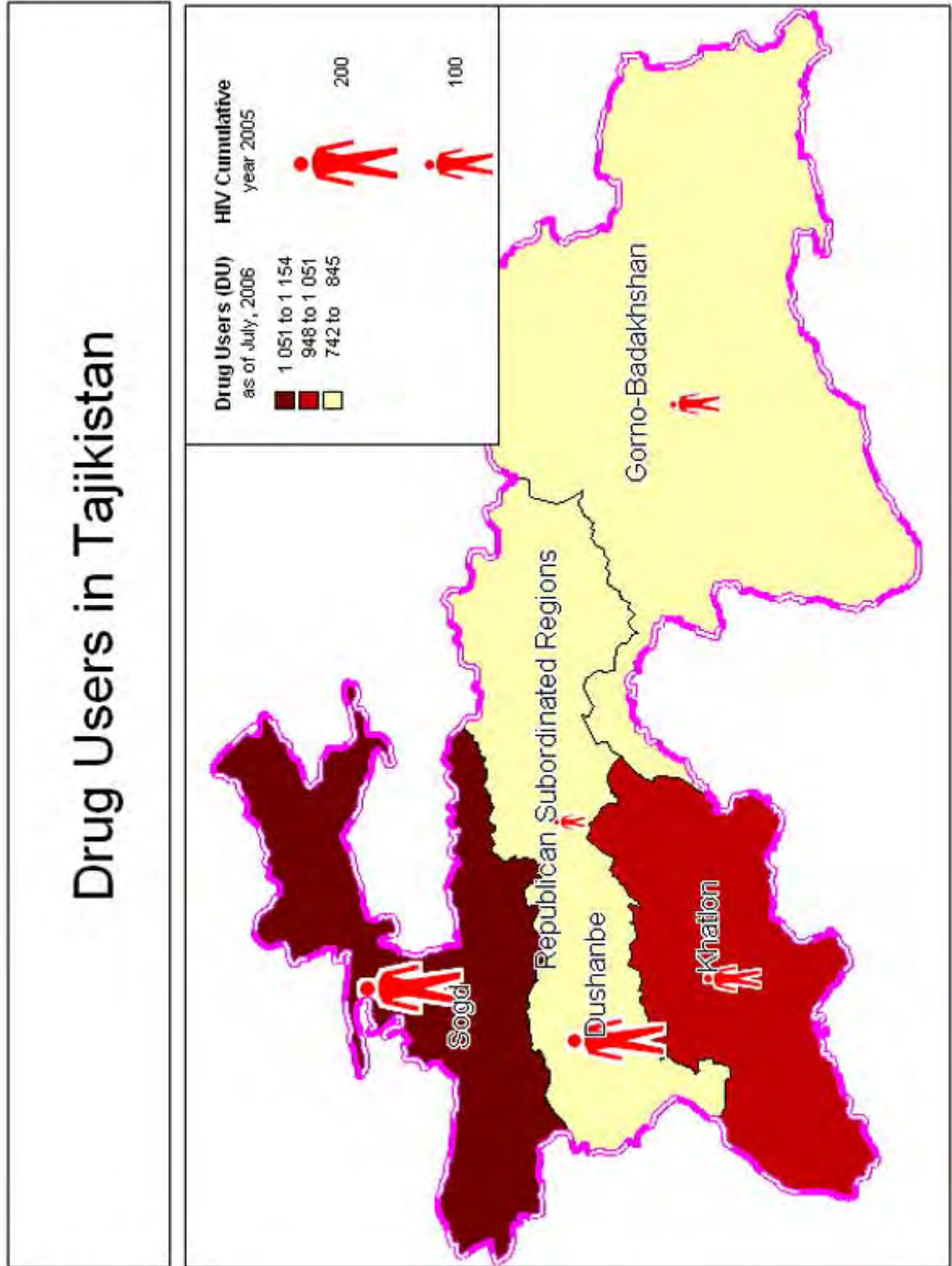


图-10②



Drug Users in Kyrgyzstan

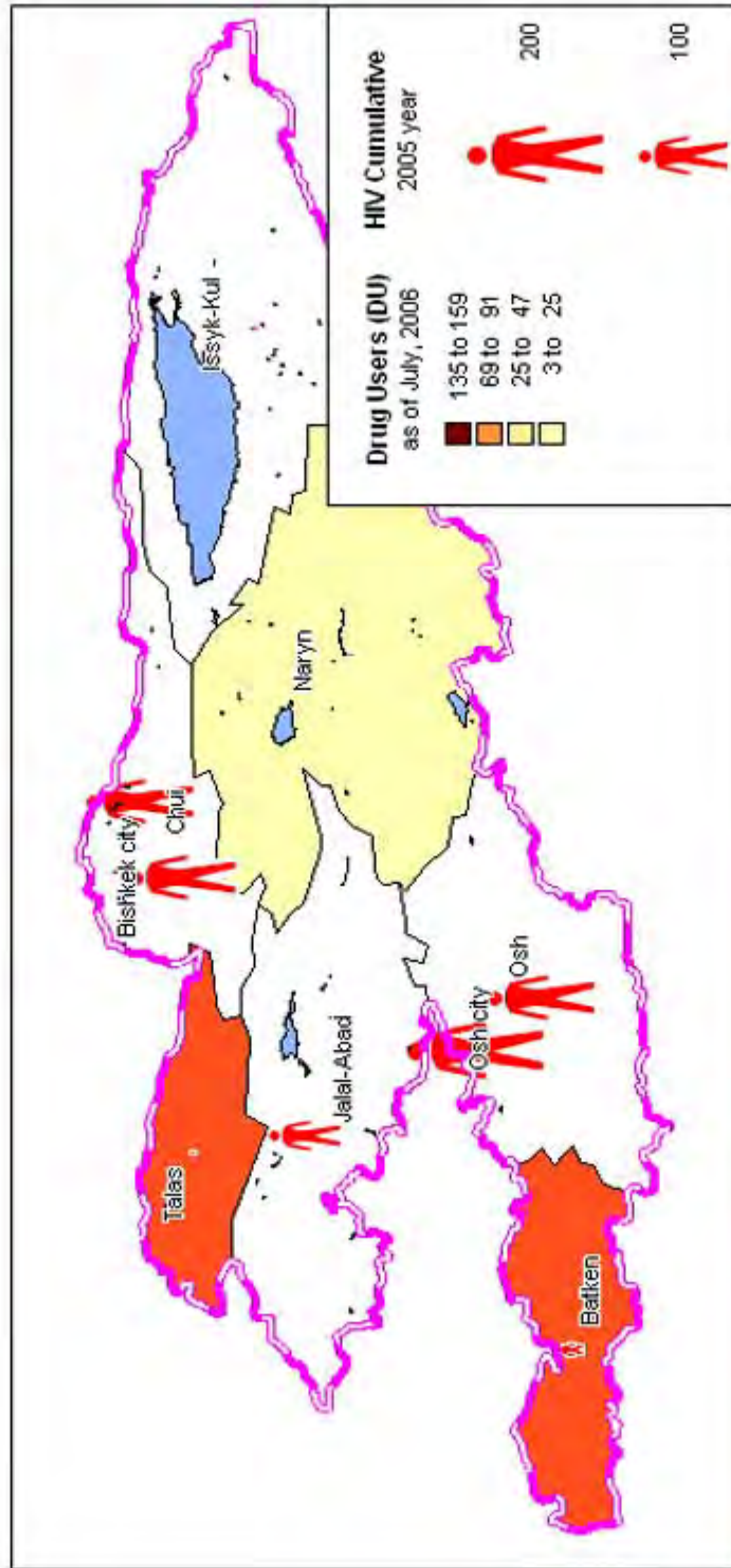
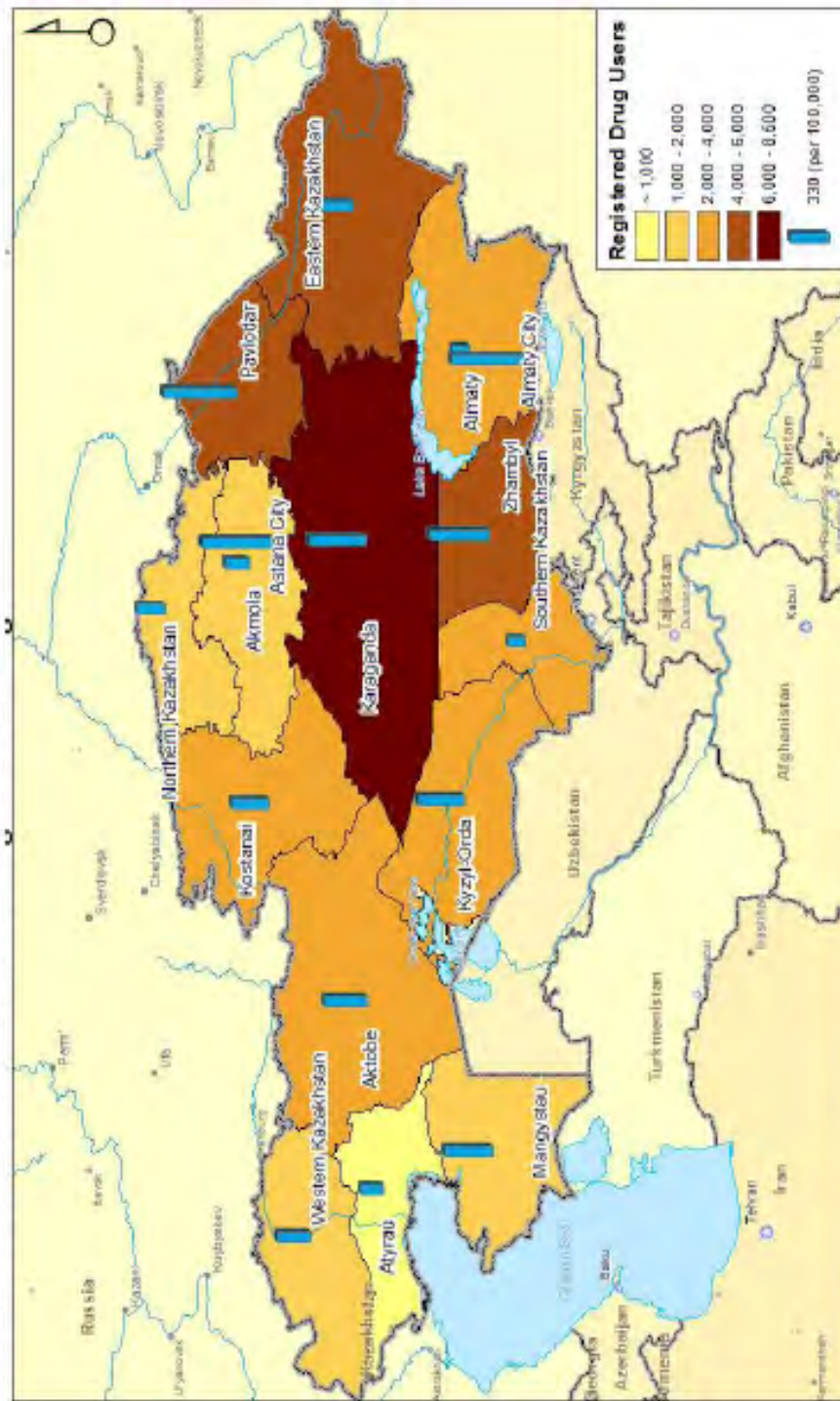


图-104

Map 11. Number and rate of drug users registered in Kazakhstan, 2007



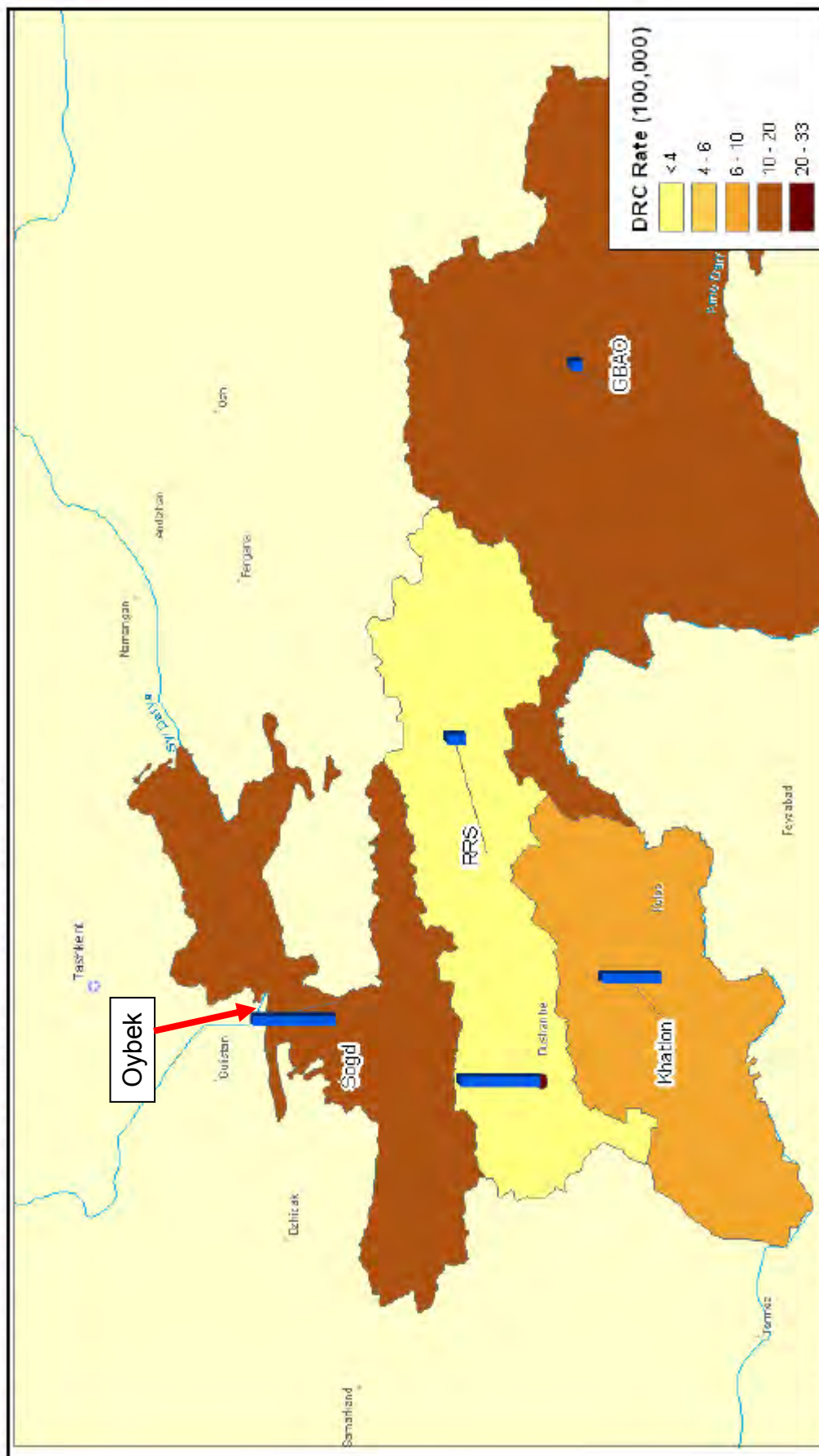
The boundaries and names shown and the designations used on this map do not imply official endorsement or acceptance by the United Nations.

Source: Committee for Drug Trafficking Prevention and Drug Control, Ministry of the Interior

出典：COMPENDIUM Drug Related Statistics (June 2008), UNODC

图-11

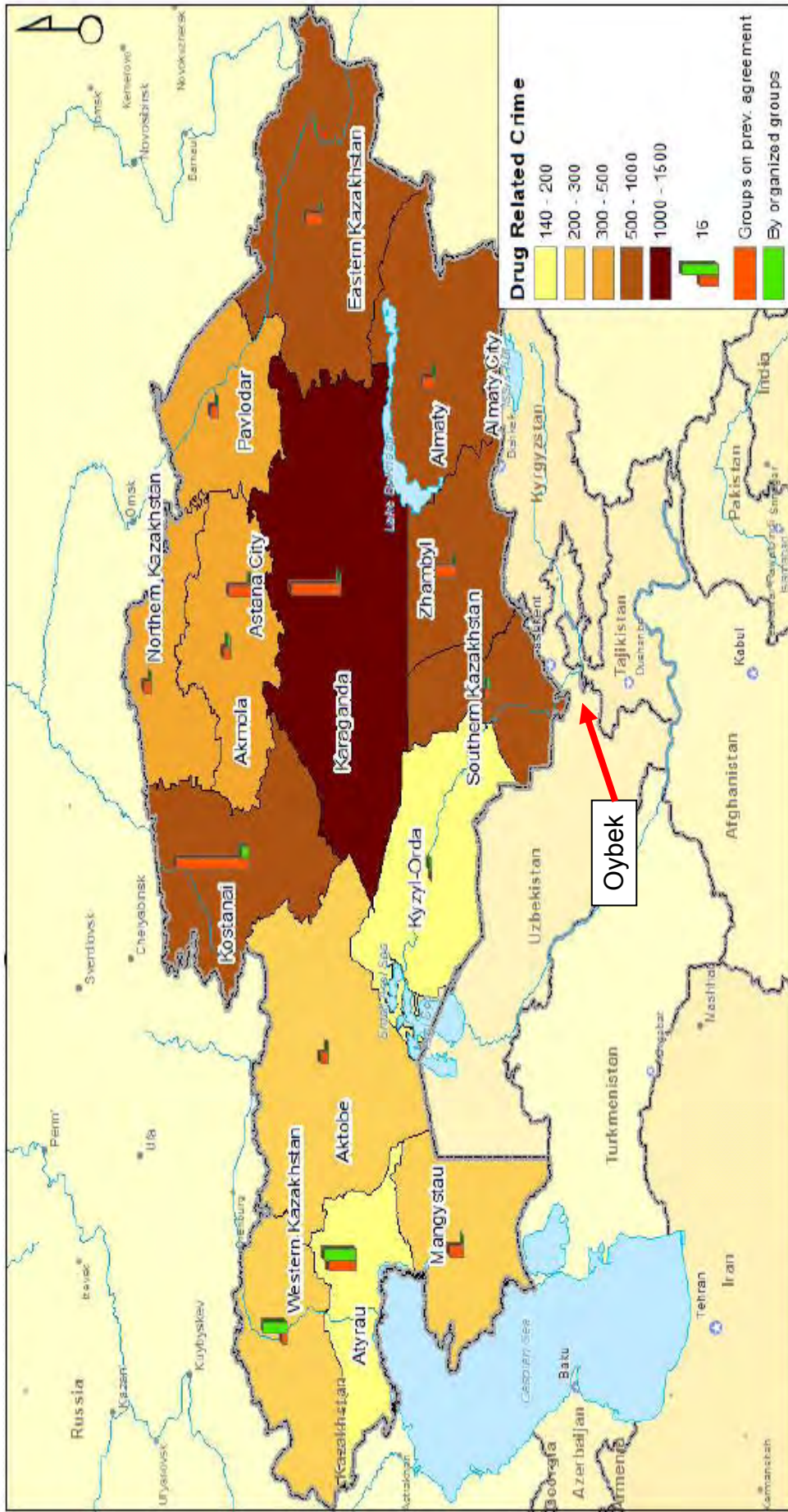
Number and rate of drug related crime in Tajikistan, 2007



Source: Ministry of the Interior of the Kyrgyz Republic

出典 : COMPENDIUM Drug Related Statistics (June 2008), UNODC

Map 12. Number of drug related crimes in Kazakhstan, 2007



The boundaries and names shown and the designations used on this map do not imply official endorsement or acceptance by the United Nations.

Source: Committee on Legal Statistics and Special Records of the Office of the Prosecutor-General

出典 : COMpendium Drug Related Statistics (June 2008), UNODC

表一1
ヘロイン (kg)

	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	%
Kazakhstan	43	33	54	262	137	168	707	458	626	555	522	-6
Kyrgyzstan	4	25	27	217	171	271	105	207	203	261	431	-65
Tajikistan	60	272	709	1,883	4,239	3,958	5,600	4,794	2,345	2,098	1,550	-26
Turkmenistan	1,949	495	240	200	71	400	81	266	181	201	326	62
Uzbekistan	70	253	325	675	467	256	336	592	467	537	480	-11
TOTAL	2,126	1,077	1,355	3,237	5,084	5,053	6,829	6,317	3,820	3,651	3,309	-9

出典 : COMPENDIUM Drug Related Statistics (June 2008), UNODC

表一2
アヘン (kg)

	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	%
Kazakhstan	1,000	314	170	136	36	14	192.5	353	669	637	336	-47
Kyrgyzstan	1,640	172	151	1,405	469	109	45.7	318	117	302	271	-10
Tajikistan	3,456	1,190	1,269	4,778	3,664	1,624	2,371.0	2,316	1,104	1,387	2,542	83
Turkmenistan	1,410	1,412	4,600	2,419	267	1,200	138.0	666	749	2,656	2,284	-14
Uzbekistan	2,364	1,935	3,292	2,008	241	76	151.2	385	108	759	731	-4
TOTAL	9,869	5,024	9,483	10,747	4,678	3,023	2,898.4	4,036	2,746	5,741	6,163	7

出典 : COMPENDIUM Drug Related Statistics (June 2008), UNODC

表一3

Table 19. Drug-related crimes registered, 2000-2007

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	%
Kazakhstan	23,340	17,388	13,313	12,039	9,748	9,741	10,423	10,502	1
Kyrgyzstan	3,539	3,205	3,018	3,106	3,090	2,565	2,437	1,996	-18
Tajikistan	1,922	1,922	1,087	877	754	620	726	775	7
Uzbekistan	10,137	9,226	8,716	8,893	8,538	8,367	8,834	9,435	7
TOTAL	38,938	31,741	26,134	24,915	22,130	21,293	22,420	21,933	-2

出典：COMPENDIUM Drug Related Statistics (June 2008), UNODC

表一4

Table 21. Drug-related crime in Central Asia, 2007

	Kazakhstan	Kyrgyzstan	Tajikistan	Turkmenistan	Uzbekistan
Criminal cases initiated¹	10,502	1,996	775	2,297	9,435
<i>Change from 2006 (%)</i>	0.8	-18	7	n/a	6.8
<i>Including:</i>					
Smuggling	390	92	n/a	n/a	284
<i>Change from 2006 (%)</i>	-11	-4	n/a	n/a	17
Crimes with intent to sell	5,016	506	406	1,514	5,157
<i>Change from 2006 (%)</i>	7	9	29	-68	-50
Crimes without intent to sell	4,903	1,187	220	n/a	n/a
<i>Change from 2006 (%)</i>	-4	-28	32	n/a	n/a
Illicit cultivation	110	61	30	n/a	1,165
Persons committed	8,147	n/a	n/a	n/a	5,303
Cases considered in the courts	n/a	1,874	703	1,786	n/a
Persons convicted	300	n/a	828	3,567	n/a

Note: Turkmenistan, for 11 months of 2007

出典：COMPENDIUM Drug Related Statistics (June 2008), UNODC